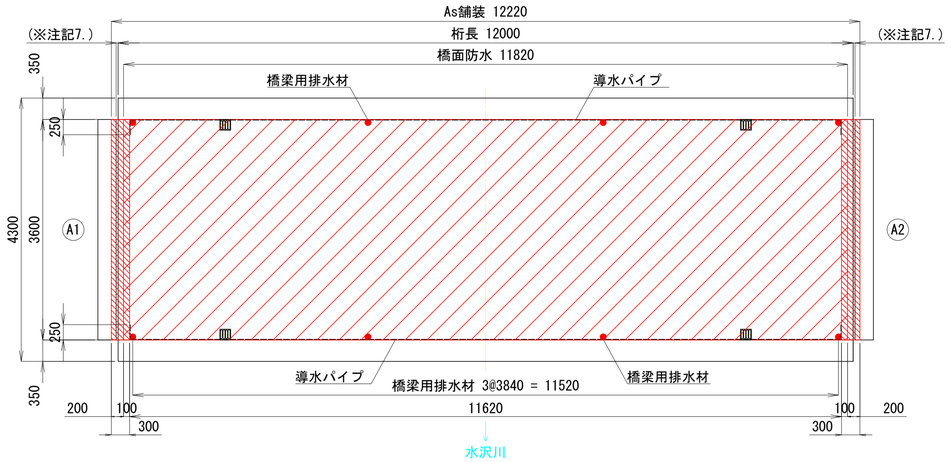
伸縮装置・橋面防水工図

平 面 図

S = 1 : 50



伸縮装置材料表　　1m当たり

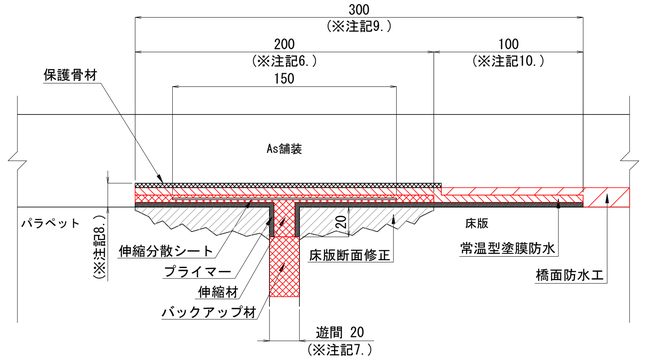
名称	材質	単位	数量	備考
伸縮材	主　剤：ゴムアスファルト乳剤 硬化剤：ウレタン樹脂化合物	kg	1.00	ロス25%含む
プライマー	シリコーン系化合物	kg	0.058	ロス20%含む
伸縮分散シート	アスファルトメッシュシート	m	1.10	ロス10%含む
バックアップ材	汎用ウレタンフォーム	m	0.55	ロス10%含む
常温型塗膜防水材	主　剤：ゴムアスファルト乳剤 硬化剤：ウレタン樹脂化合物	kg	0.45	ロス25%含む
保護骨材	硅砂4号	kg	0.16	ロス10%含む

※伸縮材は常温型塗膜防水と一体化する同系材料
※常温型塗膜防水材は伸縮装置と一体化する同系材料
※バックアップ材は2m/本を適宜切断して4mの施工に使用する

凡例	名称	単位	数量
	伸縮装置工	m	7.20
	橋面防水工	m2	42.55

断 面 図

S = 1 : 50



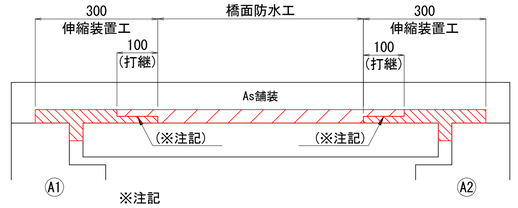
※注記
1. 伸縮装置工の数量は、調査結果を元に算出している。施工に際しては現場状況に合わせて適宜変更のこと
2. 伸縮性および止水性を有する処理を目的とするため、伸縮性を確認できる材料を選定のこと

参考仕様

一体化	遊間部止水層が床版防水層と一体化した伸縮装置として機能すること	
伸縮追従性	± 4mm繰り返しで剥離・破損がないこと	6000回
	±10mm繰り返しで剥離・破損がないこと	15回

3. 伸縮材は、現場条件への対応性が良好なことからウレタン系ゴムアスファルト乳剤を選定している
4. 伸縮材との一体化のため、常温型塗膜防水の材料にはウレタン系ゴムアスファルト乳剤を必ず使用すること
5. 床版断面修正の適用範囲はw=200mm、t=30mmまでとする
6. 設置面(w=200mm)の遊間両端のレベル差は0にまで不陸修正すること
7. 既設遊間幅が適用範囲外の場合は、適用範囲まで遊間幅を調整すること(適用範囲：20mm～10,+4mm)
8. 断面図の厚み(t)は視認性を優先し、正確な厚みを表さないことに注意すること
9. w=300に使用する防水材は、常温型塗膜系防水材を指定材料とする
10. 打継部は伸縮装置を橋面防水工の下にすること
11. 打継部の常温型塗膜防水の上面(打継面)は保護骨材およびプライマーは塗布しないこと

側 面 図



※注記
打継部は伸縮装置を橋面防水工の下にすること

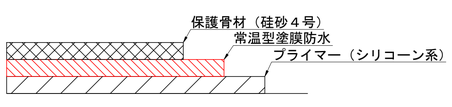
凡例	名称	注記
	伸縮装置工	伸縮材は常温型塗膜防水と一体化する同系材料 伸縮装置工の範囲(w=300mm)は常温型塗膜防水材を使用すること
	橋面防水工	橋面防水には常温型塗膜防水材を使用する

施工フロー

施工寸法・数量の確認
↓
既設Co舗装切断・撤去(t=70mm)
↓
既設目地撤去
床版・遊間部の清掃
床版断面修正
↓
バックアップ材挿入
↓
プライマー塗布
↓
伸縮材の混合
↓
伸縮材の目地充填・床版面塗布
↓
伸縮分散シートの貼付け
↓
常温型塗膜防水材の混合
↓
常温型塗膜防水材の塗布
↓
保護骨材の散布
↓
伸縮装置設置完了
↓
橋面防水の施工
↓
橋面防水完了
↓
As舗装復旧(t=70mm)

※注記
施工は片側交互通行規制にて行うこと

橋面防水工詳細図

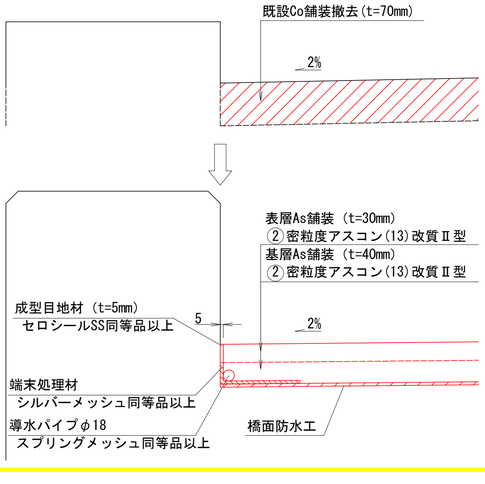


橋面防水材料表　　1m2当たり

名称	材質	単位	数量	備考
常温型塗膜防水材	主　剤：ゴムアスファルト乳剤 硬化剤：ウレタン樹脂化合物	kg	1.50	ロス25%含む
プライマー	シリコーン系化合物	kg	0.18	ロス20%含む
保護骨材	硅砂4号	kg	0.77	ロス10%含む

防水層端部処理

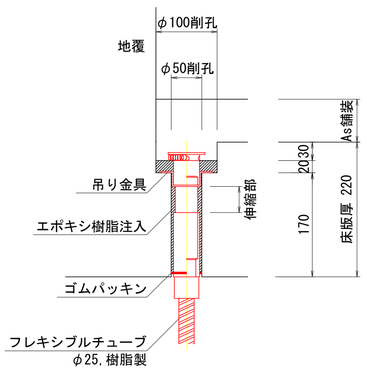
S = 1 : 5



橋梁用排水材詳細図

N = 8箇所

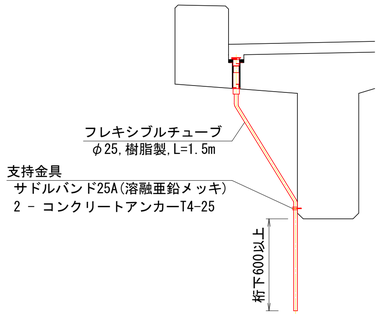
S = 1 : 5



橋梁用排水材設置図

N = 8箇所

S = 1 : 20



注記
・図面上の寸法は既存資料及び現地計測結果から作図したものである。
・施工にあたっては現地再計測のうえ、施工箇所及び範囲の確認を行うこと。

令和８年度	工事番号	
路線名 河川名	林道下高野線	
箇所名	仙北市田沢湖生保内字下高野地内	
工事名	下高野線第1号橋橋梁補修工事	
伸縮装置・橋面防水工図	縮尺	図示
照査 / 設計	図面番号	11 / 16
仙　北　市		